

2次元正規分布

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学大学院 理工学研究科 数理情報学専攻

理論物理学特論 L02 (2022-09-28 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2022-09-28 Wed 13:44 JST hig"

今日の目標

- 2次元正規分布の、母平均値母分散共分散と、確率密度関数が互いに求められる。
- 2次元正規分布の周辺分布を求められる
- 正規分布が再生性を持つことを説明できる



略解 I

L01-Q1

Quiz 解答: 指数分布の確率

確率密度関数は $f(x) = \begin{cases} 2e^{-2x} & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$.

① 確率 $P(X \leq 3) = \int_{-\infty}^3 f(x)dx = F(3) = 1 - e^{-6} = 0.997521$.

② $F(x) = \int_{-\infty}^x f(x')dx = \begin{cases} 0 & (x \leq 0) \\ 1 - e^{-2x} & (x > 0) \end{cases}$.

③ $F^{-1}(p) = -\frac{1}{2} \log(1 - p)$.

④ 確率 $P(3 < X \leq 4) = \int_3^4 f(x)dx = F(4) - F(3) = e^{-6} - e^{-8} = 0.00214329$.

⑤ 確率

$$P(X \geq 4) = \int_4^{+\infty} f(x)dx = F(\infty) - F(4) = e^{-8} = 0.000335463.$$

略解 II

- ⑥ $F(x) = 3/4$ より, $F^{-1}(3/4)$. $e^{-2x} = 1/4$ より,
 $x = -\frac{1}{2} \log \frac{1}{4} = \log 2 = 0.693147$.

L01-Q2

Quiz 解答: 2次元の確率密度関数

X, Y は独立だが, これらは, 1変数の量だけからは求められない.

- ① $P(X \leq 1 \text{ または } Y \leq 5) = 1 - P(X > 1 \text{ かつ } Y > 5) =$
 $1 - (1 - P(X \leq 1))(1 - P(Y \leq 5)) = 1 - e^{-2 \cdot 1} e^{-3 \cdot 5}.$
- ② $P(Y \leq 5X) = 6 \int_0^\infty dx e^{-2x} \int_0^{5x} dy e^{-3y} = \frac{2}{17}.$
- ③ $E[3 + e^{x+y}] = 3 + 6 \int_0^\infty e^{(-2+1)x} dx \times \int_0^\infty e^{(-3+1)y} dy = 3 + \frac{6}{1.2} = 6.$

L01-Q3

Quiz 解答: 独立と限らない多次元の連続型確率変数

略解 III

$$\begin{array}{l} ① \frac{459}{40} \\ ② \frac{7}{30} \end{array}$$

ここまで来たよ

① 多次元の確率変数

② 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 (X, Y が独立)
- 2次元正規分布 (X, Y が独立でない)
- 周辺分布
- 和の分布と再生性

一般の1次元正規分布 normal distribution $N(\mu, \sigma^2)$

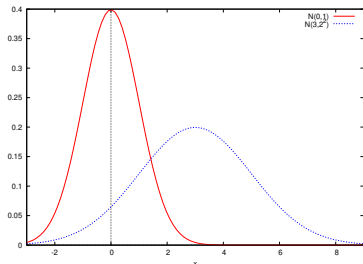
定義 (一般の1次元正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$ 岩薩林 確率・統計 (4.23))

母平均値 $E[X] = \mu$, 母分散 $V[X] = \sigma^2$ の正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$ の確率密度関数は,

$$f(x; \mu, \sigma^2) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}.$$

`scipy.stats.norm(loc=mu, scale=σ)`

標準正規分布は, $\mu = 0, \sigma^2 = 1$ のときのこと. $Z \sim N(0, 1^2)$.



きょう繰り返し使う積分

$Z \sim N(0, 1^2)$ に対して, $X = \sigma Z + \mu$ は, と $X \sim N(\mu, \sigma^2)$.

$$E[X^0] = \int_{-\infty}^{+\infty} \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{1}{2\sigma^2}(x-\mu)^2} dx = 1,$$

$$\int_{-\infty}^{+\infty} e^{-\frac{1}{2}ax^2} dx = \sqrt{\frac{2\pi}{a}},$$

$$\int_{-\infty}^{+\infty} e^{-\frac{1}{2}ax^2+bx} dx = \sqrt{\frac{2\pi}{a}} \cdot e^{-\frac{b^2}{2a}}.$$

$$a = \frac{1}{\sigma^2}, \quad \frac{b}{a} = \mu.$$

ここまで来たよ

① 多次元の確率変数

② 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 (X, Y が独立)
- 2次元正規分布 (X, Y が独立でない)
- 周辺分布
- 和の分布と再生性

2次元正規分布 (X, Y が独立でない) をレビュー

定義 (一般の2次元正規分布)

連続型確率変数 X, Y が 次の形 (指数関数の肩が x, y の2次式) の同時確率密度関数を持つとき, X, Y は2次元正規分布にしたがうという.

$$\begin{aligned} f(x, y) &= C \times e^{-a(x-\mu_X)^2 - b(y-\mu_Y)^2 + cxy} \\ &= C' \times e^{-ax^2 - by^2 + cxy + px + qy} \end{aligned}$$

$a, b > 0, c$ と C, C' は, ある条件を満たす定数.

あとから行列とベクトルで美しい形で書く

2次元正規分布で $c = 0$ (X, Y が独立) 岩薩林 確率・統計 §4.6, 例題 4.12

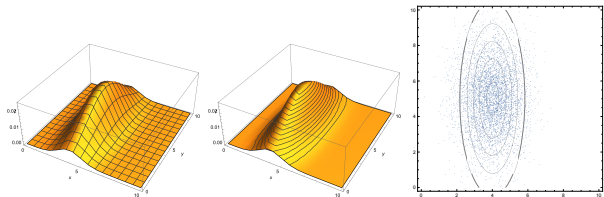
確率変数 X, Y に対して, 次の同時確率密度関数を考える.

$$f(x, y) = \frac{1}{(2\pi\sigma_X^2)^{1/2}} e^{-\frac{(x-\mu_X)^2}{2\sigma_X^2}} \times \frac{1}{(2\pi\sigma_Y^2)^{1/2}} e^{-\frac{(y-\mu_Y)^2}{2\sigma_Y^2}}.$$

$c = 0$ のとき, X, Y の周辺分布は… よって X, Y は独立.

$$E[X] = \mu_X, \quad E[Y] = \mu_Y, \quad V[X] = \sigma_X^2, \quad V[Y] = \sigma_Y^2, \quad E[XY] = \mu_X \cdot \mu_Y$$

$$\text{母共分散 } \text{Cov}[X, Y] = 0, \quad \text{母相関係数 } r_{XY} = \frac{\text{Cov}[X, Y]}{\sqrt{V[X]}\sqrt{V[Y]}} = 0$$



f の等高線は
(μ_X, μ_Y) を中心
とする楕円.

L02-Q1

Quiz(2次元正規分布)

次の同時確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-x^2 - 4x - 2y^2 + 12y - 5}.$$

- 1 X, Y の母平均値, 母分散, 母共分散を求めよう.
- 2 $E[1] = 1$ が満たされるように定数 C を定めよう.

2次形式の標準化 (線形代数 I)

L02-Q2

Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-4x^2 - \frac{1}{6}y^2 + 2y}.$$

- ① X, Y の母平均値, 母分散, 母共分散を求めよう.
- ② $E[1] = 1$ が満たされるように定数 C を定めよう.

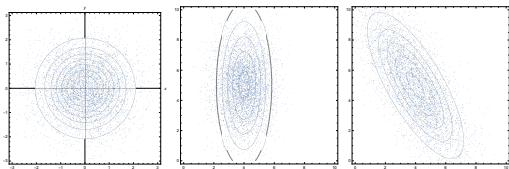
ここまで来たよ

① 多次元の確率変数

② 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 (X, Y が独立)
- 2次元正規分布 (X, Y が独立でない)
- 周辺分布
- 和の分布と再生性

等高線が傾いた楕円の分布も作りたい!



考え方 1

等高線が円 $D = x^2 + y^2$

等高線が傾いた楕円 $D = x^2 + cxy + 2y^2$

2次形式の標準化 (線形代数 I, II)

考え方 2 独立じゃなくしたいから、指数関数の引数に xy の項でもいれておけば?

一般の2次元正規分布

$$f(x, y) = C \times e^{-ax^2 - by^2 + cxy + px + qy}$$

命題 (一般の2次元正規分布の同時確率密度関数)

2次元正規分布 $N(\boldsymbol{\mu}, \Sigma)$ の同時確率密度関数は、確率変数を $\boldsymbol{X} = {}^t(X, Y)$ とするとき、

$$f(\boldsymbol{x}) = \frac{1}{\sqrt{(2\pi)^2 \det \Sigma}} e^{-\frac{1}{2} {}^t(\boldsymbol{x} - \boldsymbol{\mu}) \Sigma^{-1} (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{\mu})}$$

$$\text{母平均値 (ベクトル)} \boldsymbol{\mu} = \begin{pmatrix} \mu_X \\ \mu_Y \end{pmatrix} \stackrel{\text{要証明}}{=} \begin{pmatrix} E[X] \\ E[Y] \end{pmatrix}$$

$$\text{母共分散行列} \Sigma = \begin{pmatrix} \sigma_X^2 & C_{XY} \\ C_{XY} & \sigma_Y^2 \end{pmatrix} \stackrel{\text{要証明}}{=} \begin{pmatrix} V[X] & \text{Cov}[X, Y] \\ \text{Cov}[X, Y] & V[Y] \end{pmatrix}$$

- たしかに正規分布
- $\text{Cov}[X, Y] = 0$ のとき独立なケースに帰着.

`scipy.stats.multivariate_normal(mean=[μ_x, μ_y], cov=[[σ_x^2, σ_{xy}], [σ_{xy}, σ_y^2]])`

multivariate analysis = 多変量解析 \neq 多変数の解析学 = multivariable calculus

L02-Q3

Quiz(2次元正規分布の確率密度関数)

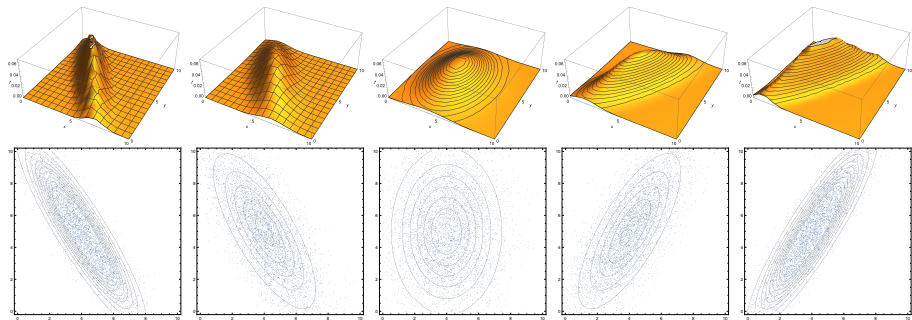
確率変数 X, Y は2次元正規分布にしたがい、 $E[X] = -4, E[Y] = 5,$
 $V[X] = 2, V[Y] = 3, \text{Cov}[X, Y] = -1$ を満たす。

同時確率密度関数 $f(x, y)$ を(行列やベクトルを使わずに)具体的に求めよう。

母相関係数 r , 共分散行列 Σ . $c = \frac{9\sqrt{21}}{10}$

$$r = -0.90 \quad -0.76 \quad 0 \quad +0.76 \quad +0.90$$

$$\Sigma = \begin{pmatrix} 3 & -c \\ -c & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & -2\sqrt{3} \\ -2\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & +2\sqrt{3} \\ +2\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & +c \\ +c & 7 \end{pmatrix}$$



確率密度関数から母ナントカ I

L02-Q4

Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-2x^2 + 6xy - 7y^2 + 26x - 54y - 7}.$$

- ① 母平均値, 母共分散行列を求めよう.
- ② $E[1] = 1$ が満たされるように定数 C を定めよう.

L02-Q5

Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-x^2 + 4xy - 7y^2}.$$

- 1 母共分散行列を求めよう.
- 2 $E[1] = 1$ が満たされるように定数 C を定めよう.

2次形式の標準化 (線形代数 I)

ここまで来たよ

① 多次元の確率変数

② 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 (X, Y が独立)
- 2次元正規分布 (X, Y が独立でない)
- 周辺分布
- 和の分布と再生性

周辺分布

定義 (周辺分布)

$f(x, y)$: 連続型確率変数 X, Y の同時確率密度関数とする
次を X の周辺分布の確率密度関数は次で与えられる.

$$f_X(x) = \int_{-\infty}^{+\infty} f(x, y) dy$$

2次元正規分布の周辺分布

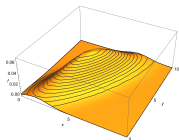
命題 (2次元正規分布の周辺分布)

X, Y が (独立とはかぎらない) 2次元正規分布にしたがうとき,
 X の周辺分布は 1次元正規分布である

2次形式の標準化 (線形代数 I)

簡単のため, 1次の項がない場合で示す.

$$\begin{aligned} & \int_{-\infty}^{+\infty} C e^{-ax^2 - by^2 + cxy} dy \\ &= \int_{-\infty}^{+\infty} C e^{-ax^2 - b(y - \frac{c}{2b}x)^2 + \frac{c^2}{4b}x^2} dy \\ &= C' e^{-(a - \frac{c^2}{4b})x^2} \end{aligned}$$



L02-Q6

Quiz(2次元正規分布の周辺分布)

次の2変数確率密度関数は (X, Y) の2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-x^2 + 4xy - 7y^2}.$$

- ① X の周辺分布の確率密度関数 $f_X(x)$ を求めよう.
- ② Y の周辺分布の確率密度関数 $f_Y(y)$ を求めよう.

ここまで来たよ

① 多次元の確率変数

② 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 (X, Y が独立)
- 2次元正規分布 (X, Y が独立でない)
- 周辺分布
- 和の分布と再生性

2次元連続型確率変数の和

$S = X + Y$ の確率密度関数 $f_S(s)$ は?

確率 $P(c \leq S < d) = \int_{-\infty}^{+\infty} I_{[c \leq s < d]}(s) f_S(s) ds$ となるべき.

$$\begin{aligned} \text{左辺} &\stackrel{\text{定義}}{=} \iint_{-\infty}^{+\infty} I_{[c \leq x+y < d]}(x, y) f(x, y) dy dx \\ &= \iint_{-\infty}^{+\infty} I_{[c \leq s < d]}(s) f(t, s-t) ds dt \quad \text{変換 } s = x + y, t = x. \quad |J| = 1 \end{aligned}$$

よって, $f_S(s) = \int_{-\infty}^{+\infty} f(t, s-t) dt$.

($c = -\infty$ において累積分布関数 $F(d) = P(S < d)$ で話すことも)

命題 (和の確率密度関数)

連続型 X, Y の確率密度関数: $f(x, y)$. 和 $S = X + Y$ の確率密度関数は,

$$f_S(s) = \int_{-\infty}^{+\infty} f(x, s-x) dx.$$

たたみ込み convolution

命題 (和の確率密度関数)

連続型確率密度関数が独立で、 X, Y の確率密度関数 $f(x, y)$ が $f(x, y) = f_X(x)f_Y(y)$ と書けるときの、和 $S = X + Y$ の確率密度関数 $f_S(s)$ は、

$$f_S(s) = \int_{-\infty}^{+\infty} f_X(x)f_Y(s-x)dx.$$

この右辺の積分を、2つの関数 $f(x), g(y)$ の **たたみ込み合成積 convolution** といい、 $(f * g)(s)$ と書くことがある。

合成積 $(f * g)$ のフーリエ変換は、 f, g のフーリエ変換の積

フーリエ解析

L02-Q7

Quiz(正規分布の和の分布)

連続型確率変数 X_1, X_2 は, 独立同分布 $N(0, 1^2)$ にしたがう.

- ① 連続型確率変数 $S = X_1 + X_2$ のしたがう分布を答えよう.
- ② 連続型確率変数 $D = 2X_1$ のしたがう分布を答えよう.

再生性 reproductive property

命題 (正規分布の再生性 岩薩林 確率・統計 定理 4.3)

独立な連続型確率変数 $X \sim N(\mu_X, \sigma_X^2)$, $Y \sim N(\mu_Y, \sigma_Y^2)$ に対して,

$$S = aX + bY \sim N(a\mu_X + b\mu_Y, a^2\sigma_X^2 + b^2\sigma_Y^2)$$

特に,

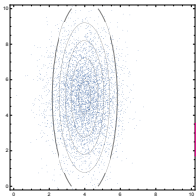
$$S = X + Y \sim N(\mu_X + \mu_Y, \sigma_X^2 + \sigma_Y^2)$$

再生性とは、独立な確率変数 X, Y の和 $S = X + Y$ が (パラメタは違うけど) 同じ分布 (今なら正規分布) にしたがるという、稀なよい性質.

他に、二項分布, ポアソン分布など.

岩薩林 確率・統計 例題 4.14 特定の a, b, μ, σ での証明

実は、一般の (独立とかぎらない) 2次元正規分布 (X, Y) に対しても $aX + bY$ は 1次元正規分布にしたがる).



L02-Q8

Quiz(正規分布の和の分布)

連続型確率変数 X_i ($i = 1, \dots, n$) は, 独立同分布 $N(3, 2^2)$ にしたがう. 連続型確率変数 $S = \sum_{i=1}^n X_i$ のしたがう分布を答えよう.